

VI 研究の成果と課題

1 成果

- 1単位時間の指導過程を明確にしたり、ノート指導を行ったりしたことで、児童は授業の流れ方やまとめ方について見通しをもつことができた。またノートには学習した事の足跡が残り、児童が「楽しい」「分かる」という意欲をもつことができた。
- 各学年で共通した単元で授業を通し検証していくことで、互いに意見を出し合いながら授業を組み立て、実践することができた。また互いの授業を参観することで課題の設定の仕方、発問の簡潔さ、資料の提示の仕方や量、手立て、児童の反応など問題点や成果を明確にしながらから研究を深める事ができた。
- 指導過程の「調べる段階」における自力解決場面で、発達段階に応じて児童がどのような解決方法をとるのか、どのように教師が支援していくのかを、それぞれの単元で把握し実践することができた。このことは算数的活動の充実にも大きく関わり、算数的な活動を通しての目標達成にせまることができた。
- 算数的活動の充実を図った授業デザインを構築し指導に生かしたことにより、CRTによる学習状況の評価で「達成(◎)・概ね達成(O)」に達した児童が約9割に達するなど児童に基礎・基本の定着を図ることができた。

2 課題

- CRTによる学習評価で「概ね達成」までに至らなかった約1割の児童に対する個別の支援や全児童の基礎・基本の定着のためのスキルアップ、また少人数指導の在り方を継続して検討・改善する必要がある。
- 児童の理解力や表現力を向上させるために、本年度実践した単元以外の算数的活動の充実を図ったり、自力解決の方法の系統性を明らかにしたりして指導の充実を図る必要がある。
- 見届けを大切に学習内容の「たしかめ」の設定が不十分だったので、確実に設定し、実践していく必要がある。
- 来年度、説明する活動に重点を移行させていくときに「話し合う必要性のある課題」「段階的な話し合いのレベル」についても明確にしていきたい。また学年に応じ、各領域でそれぞれどのような説明の仕方を身に付けさせたいか系統的に整理していきたい。

主な参考資料・文献

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ○ 小学校学習指導要領解説 算数編 | 文部科学省 (平成20年8月) |
| ○ 算数科・新しい問題解決の指導 | 伊藤説朗著 東洋館出版社 |
| ○ 小中高の系統性を踏まえた授業のポイント | 宮崎県教育研修センター |